大一工業

斜面覆い除草省力化・減農薬技術

根は生かし畦畔守る

水稲の減農薬栽培をする農家の間で、畦畔（けいはん）を資材で覆い雑草を抑える技術が注目を集めている。大一工業（奈良県斑鳩町）の「雑草抑制おまかせネット」は、日光や風を通すため、雑草を枯らさずに成長をネットの内側に抑え込む。根まで枯らす方法と異なり、畦畔が崩れにくい。

資材ナビ

土の崩れを防ぐ

滋賀県甲賀市の多面的機能支払交付金の活動組織・小佐治環境保全部会は、同ネットを畦畔の除草の省力化に活用している。地域は標高約200㍍の中山間地。畦畔は高低差が大きく、平均で3、4㍍、高い所で10㍍ある。刈り払い機による除草作業は一苦労で、高齢農家には危険だ。

地域では、60㌢で化学農薬や化学肥料を通常の半分以下に減らした「環境こだわり米」を栽培しており、除草剤にも頼りにくい。そこで、近隣の農家が導入したのを参考に2015年から、同ネットを使い始めた。

農地の畦畔のうち、まずは共同で使う農道沿いの畦畔を優先し、これまでに全長で2㌔ほどを設置。畦畔全体の数％程度だが、毎年少しずつ広げていく考えだ。ネットを張った畦畔では雑草が伸びず、除草作業が削減できたという。

代表の橋本勉さん（82）は「畦畔が高いだけに、土が崩れることが心配。防水シートで畦畔を覆う方法だと草が枯れて土が流れやすいが、このネットでは心配が少ない」と説明する。

カメムシ通さず

設置は難しくなく、農家だけでできる。設置費用には、畦畔の整備作業として国や県の交付金を活用し、農家負担を抑えられた。雑草と水稲を行き来する斑点米カメムシ類についても、雑草を覆うネットの網目が細かいため通れず、発生を抑えられるという。

地域では、特産のもち米「滋賀羽二重糯」を使った地域おこしが進んでおり、環境に配慮した農業は付加価値向上にもつながる。

橋本さんは「緑色で景色の中にあっても違和感がない。8年くらい持つといわれているので、費用対効果も良い」と説明。今後は、高くて除草に苦労する場所など、個人の水田の畦畔にも設置を広げていく計画だ。

「雑草抑制おまかせネット」の設置作業（小佐治環境保全部会提供）

広い斜面を覆った「雑草抑制おまかせネット」（同）

雑草抑制おまかせネット

ポリエチレン製で目合い1㍉ほどのネット。畦畔の草を軽く刈った後、しわが寄る程度にゆとりを持たせて展張する。雑草が成長すると膨らんで盛り上がるが、ネットを破ることはなく、成長を抑える。通常の耐用年数は8年。

目合いは、斑点米カメムシ類が出入りできない大きさ。風を通し、めくれにくい他、雑草の根が生きているため、畦畔の土が崩れにくい。色は緑と黒。幅は1～4㍍。価格は、幅1㍍長さ50㍍で1万2000円前後。50～70㌢間隔でネットを固定するストッパーが、300本で1万円前後。

問い合わせは大一工業、電0745（75）2645。

農Bizカンパニー

Tsunagu

出荷量ウェブで共有

ＪＡ向け直販支援システム

ＪＡの農産物直接販売を支援するサービスが登場した。管内の農家が何をいつ、どれだけ出荷できるかを集約し、その情報を基に、スーパーや卸売業者などに提案。注文を受けたら、農家に出荷を依頼する――。これをインターネット上で効率的にできるのが、Ｔｓｕｎａｇｕ（ツナグ＝静岡県富士宮市）が提供する「Ｔｓｕｎａｇｕ Ｐｒｏ（ツナグプロ）」だ。

「収量予測ができないと、勘に頼った商品提案になる。正確な提案ができないと買い手は付かない」と、同社の鈴木輝代表は話す。フリーマーケット（フリマ）サイトなど、ネットを通じた電子商取引（ＥＣ）サイトは、農家が消費者に直接販売する場合が多い。「情報をうまくまとまった量で集められる」ＪＡは販売力を伸ばす。2021年6月始めた。

同サービスは今後数日間、農家は今後数日間、荷を予定するデータをスマートフォンに入力し、ＪＡのデータを基に、出荷日や数量を交え、売りたいする。買い手は欲しい時に欲しい保できる安心な買い手側からもできる。直接狙い、現在まで、ＪＡが導入した。

鈴木代表は、システム販事業は、システムの開発を通じて、従業員

ツナグプロのシステムを紹介する鈴木代表（横浜市で）

話題の商品

作業音が静かで安全性高いＳＳ

ショーシン

ショーシン（長野県須坂市）は、スピードスプレヤー（ＳＳ）「３Ｓ－ＣＨ６４０Ｈ」＝写真＝を来年3月に発売する。4気筒1・498㍑のクリーンディーゼル仕様のエンジンを搭載。新開発の送風機は、従来機より作業音を大幅に抑え、むらなく風を送り出せるという。

計器類が発光ダイオード（ＬＥＤ）表示になり、夜でも見やすくなった。従来のブレーキの仕組みを変更して止まりやすくするなど、安全性を高めた。

風量は分速430立方㍍と700立方㍍の2段階。薬液タンクは600㍑で、給水時に満量になると自動で止まる。1分当たり94㍑の散布が可能。小・中規模の園地であれば、リンゴやブドウなどの品目に広く使えるという。

長さ約3㍍、幅約1・4㍍、高さ約1・2㍍。4ＷＤと4ＷＳの2モデルがある。価格は、4ＷＤモデルが566万5000円で、4ＷＳモデルが583万円。問い合わせは同社営業部、電026（245）1611。

生理障害少ない極早生オクラ

武蔵野種苗園

武蔵野種苗園（東京都豊島区）は、生理障害に強く長期多収の極早生オクラ「ジュピター」＝写真＝を来年1月に発売する。夏場の高温や乾燥などの異常気象下でかり果、み（アン発生が少で、収穫多収が期う。

果皮色光沢があ黒ずみ、く、棚植る。草勢培後半ま

一村逸品

白桃コロッケ

岡山県赤磐市

岡山県赤磐市の平尾雅子さんが代表を務める「さんようみねるば」が製造する。県内でも有数の産地である同市で取れた桃を使っている。

シロップに漬け、角切りとピューレにした桃をジャガイモに混ぜ